

地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の先進的な活動取材し、本ダイジェストでご紹介しています。

米沢市国際交流協会 (YIRA)

◆すべての在住外国人にYIRAの存在を届けたい

山形県の最南端にあり、福島県との県境に位置する米沢市。在住外国人支援や多文化共生に取り組む米沢市国際交流協会、事務局員の石山杏子さんにお話をうかがいました。

今年25周年を迎えるYIRAの外国人への支援や交流活動は非常に活発です。市内に暮らす外国人の生活に関わる情報を英語、中国語、韓国語に多言語化し市役所と協力して配布したり、雪の多い米沢市で安全・快適に冬を過ごせるように、冬の暮らしかた情報を多言語で作成するなど、在住外国人の方の米沢での暮らしをサポートしています。

外国人と日本人が交流の機会をたくさん持てるよう、月に数回の言語交流講座を開催しているそうです。その他、市役所や大学、病院への通訳翻訳支援を実施しています。一方で、市の人口の1%しかいない在住外国人の中のほんの一握りの人にか、YIRAの存在が知られていないため、もっと周知に力を入れていきたいと石山さんは語っていました。

米沢市は県南に位置しているため、これまでYIRAは県北の情報をあまり把握できなかったのですが、昨年からは山形県国際交流協会主催で県内の団体同士の交流が行われていて、他地域との情報交換が可能になったとのこと。今後、地域の団体が連携して共通の課題を解決していくきっかけになるかもしれません。

YIRAウェブサイトはこちらから <https://www.yira-yonezawa.org/>



月1回の英語文化交流講座
「英語の部首について」

NPO法人 いなか暮らし遊佐応援団

◆国際交流事業と移住促進事業の組み合わせで町を活性化

山形県遊佐町で移住促進事業と国際交流事業を実施する、NPO法人いなか暮らし遊佐応援団の後藤真樹さんにお話をうかがいました。

同団体は2015年1月、遊佐町への移住を希望する方をサポートするために設立されました。青年海外協力隊で国際協力の活動を経験してきた後藤さんがUターンで遊佐町に戻り、就職したのをきっかけに国際交流事業が加わりました。国際交流事業は遊佐町からの委託で実施しています。遊佐町では姉妹都市ソルノク市（ハンガリー）との交流が1983年より続いており、毎年、中高生を派遣しています。ソルノク市からの訪問団を受け入れることもあります。交流は草の根から始まったため、人と人との暖かいつながりが土台になっているそうです。

その他に町内に70名ほどの在住外国人を支援する事業を行っています。以前は日本人配偶者の方が多かったのですが、今は主に農業分野の技能実習生のベトナム人の方が増えてきました。庄内地域の5市町村（遊佐町、酒田市、鶴岡市、庄内町、三川町）と日本語スピーチ・コンテストを開催していて、その会議の場で各地域の活動などの情報交換ができています。

コロナ禍で渡航を含んだ交流はできないものの、令和2年度はソルノク市との長年の交流の歴史を展示したイベントを企画したという後藤さん。さらに近い将来、人材や協力者を集めて国際交流のフェスティバルの開催を実現したいと熱く語ってくれました。

いなか暮らし遊佐応援団のウェブサイトはこちら <https://www.facebook.com/inakagurashi.yuza/>

地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の先進的な活動取材し、本ダイジェストでご紹介しています。

酒田市国際交流サロン

◆外国人配偶者の声から生まれた市民協働

山形県の日本海側の港町、酒田市にある酒田市国際交流サロンの守屋純さん、余語美香さんにお話をうかがいました。

酒田市国際交流サロンは、2011年、日本人配偶者として酒田市に暮らす女性たちの声に応える形で設立されました。女性たちが自身が企画運営委員会を立ち上げて準備を進める中、酒田市は場所を提供しました。設立後は市の予算だけでなく、自分たちがイベントでコーヒーや玉こんにゃくなどの商品を販売した売り上げなどで運営されてきました。

当事者が運営に関わるため、市民との交流活動が非常に活発です。在住外国人が講師をする料理教室や出身国について語る会、逆に外国の方のための日本料理教室や日本文化、生活についての勉強会など、外国人の方の声を受けた企画が開催されています。最大のイベントである「国際交流まつり」では、日本人と外国人の交流を目的とした楽しい企画がたくさん催されます。これらのイベントの写真をみると家族連れや若い人も多く参加されている印象です。酒田市でも近年は技能実習生が増えているのですが、その若い方々も日本語教室やイベントに積極的に参加されていることが活動の盛り上がりの理由の一つかもしれません。

日本語教室は、日本語学習支援ボランティアのべにばな会が、市の委託を受けて行っています。主体は市民でも行政がバックアップしてくれることが、日本語教室が安定して継続できる秘訣ではないかとおっしゃる守屋さんと余語さんの言葉に深く頷いてしまいました。

「ここでの学習や交流を通じて、日本人も外国人も国際感覚や見聞を広げ、人材として育ててもらえることが私たちの目標です。最初は日本語の挨拶しかできなかった人が、今講師として外で活躍している姿等を見るととてもうれしい」とお話を聞きました。お話を伺って、市民と行政の協働が理想的な形で地域の多文化共生を進められている素敵なお事例だと思いました。



2019年国際交流まつり集合

酒田市国際交流サロンのウェブサイトはこちらから <https://www.facebook.com/sakataIFEC/>

◆「多文化共生支援団体リスト」をご活用ください！！

(一財)自治体国際化協会(クリア)のウェブサイトに掲載していた「多文化共生支援団体リスト」を、市民国際プラザのウェブサイトに移行しました。様々な分野で多文化共生社会推進のために活動する各地域の国際交流協会、NPO等民間団体、ボランティアなどについての情報を提供し、その団体の活動への理解を深めながら、平時からの連携のための情報交換やネットワークづくりを目的として作成しています。ぜひご活用ください。

<http://www.plaza-clair.jp/interview/list.html>

～市民国際プラザを広く皆様に知っていただくために～



市民国際プラザのFacebookに「いいね！」をお願いします！

